

「人生 100 年時代」に必要な備えとは？
授業展開案（50 分）

1. 学習のねらい

- ・少子高齢社会において、日常生活を送るうえで意識すべきことを考える
- ・リスクから自分の身を守る手段として、自助・共助・公助について理解する
- ・「自助」として、自分で備える手段の預貯金と民間保険の特徴を理解する

2. 授業の概要 (50分)

概要	学習内容とねらい
導入 (2分)	今日のねらい ★授業の目的を確認する
展開① (7分)	1. 少子高齢化について考えよう ★少子高齢化の現状と起こりうるリスクについて学ぶ
展開② (10分)	2. リスクについて考えよう ★リスクが起きてしまった事例について具体的にイメージし、「何に」「いくら」かかるか考えることにより、必要なお金を準備する手段について学ぶ ★リスクから自分の身を守る手段として、自助・共助・公助について理解する
展開③ (6分)	3. 社会保障制度って何だろう？ ★社会保障制度（社会保険）について学ぶ
展開④ (20分)	4. 「預貯金」と「民間保険」の違いって何だろう？ ★自助の代表的な手段である「預貯金」と「民間保険」について、そのしくみと特徴を理解する ★データを用いて「生命保険」の特徴や種類について学ぶ
まとめ (5分)	5. まとめ ★授業のふりかえりをする

3. 授業形式

- ・パワーポイントと生徒用ワークシートを用いた講義形式

4. 準備物

- ・生徒用ワークシート (WS)、パソコン (パワーポイントが使える環境のもの)、プロジェクター、スクリーン、筆記用具 (生徒)

授業時間が **50分以上** の場合や、授業展開案 (50分) の内容を**補足** したい場合は・・・

50分授業セット「人生100年時代」に必要な備えとは？ ※本教材



中学生作文コンクール入賞作品

全国の中学生を対象に、生命保険の役割などについて理解を深めていただくことを目的とした作文コンクールです。

<https://www.jili.or.jp/school/concours/prize.html>



生命保険を知る・学ぶ

生命保険に関する知っておきたい基礎知識や、生命保険・年金・医療・介護・税金に関する Q&A、出版物などを通して、最新かつ適切な情報をお届けします。

https://www.jili.or.jp/knows_learns/



ひと目でわかる生活設計情報

生活設計をたてるために必要な基本的な考え方やヒント・参考情報を分かりやすくまとめています。

<https://www.jili.or.jp/lifeplan/>



5. 授業展開（詳細）

【図記号の説明】

○：スライドタイトル 【WS】ワークシート掲載
★：ポイント ★★★：重要ポイント (Q)：発問

時間	内容	備考	スライド
導入 2分	今日のねらい ○今日のねらい【WS】 ★授業の目的を確認する	・「日本に 100 歳以上の人は何人いるの？」のスライドで 高齢化の現状について意識付け をしてから今日のねらいを説明 する ※全体を通してスライドを入れ 替え、使用することも可能	
展開① 7分	1. 少子高齢化について考えよう ○日本に 100 歳以上の人は何人いるの？ ★本教材のタイトルにある「人生 100 年時代」をキーワードに、日本の高齢化の現状について認識させる ○平均寿命 ★日本の平均寿命を紹介する ○平均寿命と健康寿命 ★平均寿命と健康寿命の差を紹介し、この期間に病気にかかったり、介護が必要になる可能性があることをイメージさせる ○日本の少子高齢化の現状と推計 ★グラフで少子高齢化の状況、今後の推計を認識させる ○人生におけるリスク ★病気や介護等といった高齢化に伴うリスクだけではなく、人生において様々なリスクがあることを伝える	(Q) 2021 年の日本の 100 歳以上の人口はどれくらいでしょう？ 【参考データ】 100 歳以上の高齢者の数は、老人福祉法が制定された 1963(昭和 38)年には全国で 153 人だったが、1981(昭和 56)年に 1,000 人、1998(平成 10)年に 10,000 人、2012(平成 24)年には 50,000 人を超えた。 <厚生労働省「百歳の高齢者へのお祝い状及び記念品の贈呈について」(2021 年 9 月 1 日現在の住民基本台帳による都道府県・指定都市・中核市からの報告数)> 【参考データ】 主要疾病の平均入院日数 ・脳血管疾患：78.2 日 ・結核：54.1 日 ・骨折：37.2 日 ・高血圧性疾患：33.7 日 ・糖尿病：33.3 日 ・肺炎：27.3 日 ・肝疾患：22.9 日 ・新疾患：19.3 日 ・悪性新生物：17.1 日 <厚生労働省「患者調査」(平成 29 年)> 【参考データ】 年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合 ・40～64 歳：0.3% ・60～69 歳：2.0% ・70～74 歳：4.0% ・75～79 歳：8.6% ・80～84 歳：18.7% ・85 歳以上：47.6% <生命保険文化センターが厚生労働省「介護給付費等実態統計月報」、総務省「人口推計月報」の各令和 3 年 2 月データをもとに作成> 【参考データ】 人生の 3 大費用 ・教育費用 約 950 万円 ・住宅費用 約 4,397 万円 ・老後費用 約 5,644 万円 <文部科学省「子供の学習費調査」(平成 30 年度)、私立大学学費は、生命保険文化センターが文部科学省「私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額調査」(令和 3 年度)をもとに作成 住宅金融支援機構「フラット 35 利用者調査」戸当たり所要資金(土地付き注文住宅)(2020 年度) 総務省「家計調査年報」(2020 年平均)>	

展開②
10分

2. リスクについて考えよう

○リスクとは何か

★リスクとは何か、普段の生活の中でどんなリスクがあるかを想像させ、発生すると経済的な損失を被ることを認識させる

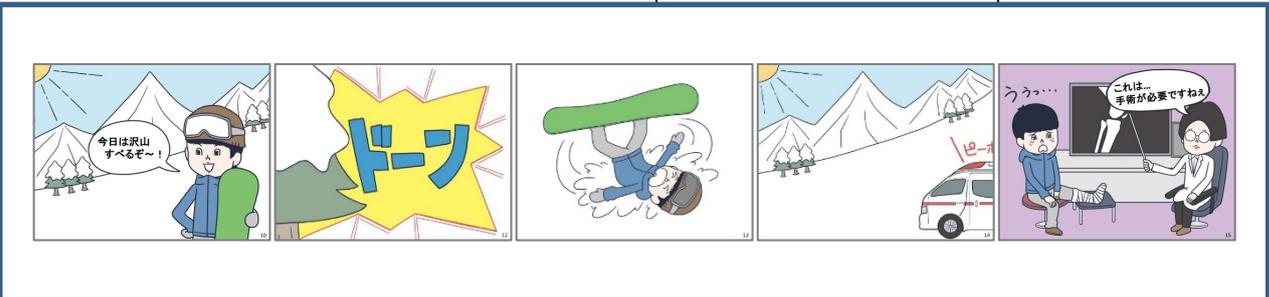
【用語】

リスク：予想できない事態により経済的損失や不利益を被る可能性のこと



○事例「足の骨折で入院したら」

★イラストを使ったアニメーションを通じてリスクが起きてしまった事例について具体的にイメージさせる



○考えてみよう

★足を骨折した場合に、どんなことにお金がかかるか考えさせる

・足の骨折で22日間入院した事例



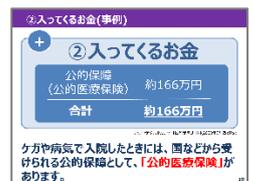
○①必要となるお金（事例）

★必要となる医療費等の金額を提示し、リスクが起きてしまったら一定の金額が必要になることを認識させる



○②入ってくるお金（事例）

★入ってくるお金として「公的医療保険」について説明する



○③自分で準備する必要があるお金（事例）

★事例を通じて、不足する金額を自分で準備して補完する必要があることを理解する

・「自分で準備する必要があるお金」を備えておく代表的な手段として、「預貯金」や「民間保険」がある



○月額給与について

★上記③「自分で準備する必要があるお金」の「約20万円」は、20歳代前半の月収に相当する大きな金額であることを認識させる



	<p>○自分の身を守るために【WS】穴埋め</p> <p>★★★自分の身を守るための考え方として、「自助・共助・公助」があることを伝える</p>	<p>・「公助」の「国など」という記載について、国以外に都道府県や市町村といった地方自治体が含まれる</p>	
<p>展開③ 6分</p>	<p>3. 社会保障制度って何だろう？</p> <p>○「社会保障制度」とは【WS】</p> <p>★社会保障制度が4つの柱からなることを説明する</p> <p>○「社会保険」とは</p> <p>★社会保険の内容を簡単に説明する</p> <p>○社会保障給付額の推移</p> <p>★社会保障制度の給付額が年々高額になっていることを確認する</p> <p>★★★少子高齢化が進む中で社会保障の給付額が増えていく実態を確認し、持続可能な社会保障制度のあり方について考えていくことが大切であることを伝える</p>	<p>・「共助」は労働者等(加入者)から集める「社会保険料」、「公助」は国民から集める「租税」で運営されている違いについても触れる。</p> <p>※「共助」は一部租税でも賄われている。</p> <p>・給付額の多くは「社会保険」に係る費用であることに触れる</p>	
<p>展開④ 20分</p>	<p>4. 「預貯金」と「民間保険」の違いって何だろう？</p> <p>○自分の身を守るために（再掲）</p> <p>★自助の代表的なものに「預貯金」と「民間保険」があることを確認する</p> <p>4-①. 「預貯金」と「民間保険」の違いは・・・</p> <p>○「預貯金」と「民間保険」の違い①</p> <p>★預貯金と民間保険のしくみの違いを理解する</p> <p>○「預貯金」と「民間保険」の違い②</p> <p>【WS】穴埋め</p> <p>★預貯金と民間保険の特徴を理解する</p>	<p>・民間保険とは、保険会社に保険料を支払うことで、リスクが起きたときに保険金を受け取れる契約である</p> <p>・ヨコ軸に時間をとり、タテ軸に万一の時に使える金額を示している</p>	

○「預貯金」と「民間保険」の違い③

【WS】自由記述

★預貯金と民間保険それぞれのメリット、デメリットを理解する

★★★預貯金と保険どちらが良いかではなく、それぞれの特徴を押さえて使い分けることが大事であることを認識させる

4-②. 保険のしくみ

○保険のしくみ①②

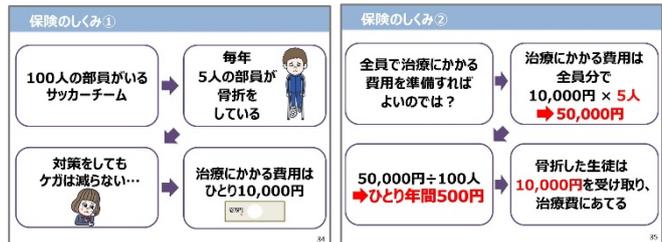
★保険のしくみについて単純化した例で説明

「預貯金」と「民間保険」の違い③	
預貯金	民間保険
<p>貯めとお金は自由に使うことができる。途中で解約し、解約金も本人の自由。</p>	<p>途中で病気やケガ、死亡が発生した場合、あらかじめ決められた金額を受け取ることができる。</p>
<p>途中で病気やケガ、死亡が発生した場合、必要な金額が貯まっていれば支取ることができる。</p>	<p>あらかじめ金額を保険料として支払う必要がある。(保険の種類によっては一定戻ってくる場合がある)</p>

<ストーリー・スクリプト>

- ・100人の部員がいるサッカーチームがある
- ・毎年5人の部員が骨折すると仮定する
- ・対策をしてもケガは減らない
- ・治療には費用がひとり1万円かかる

(次スライド)



- ・そこである部員が思いついた「全員であらかじめ治療にかかる費用を準備しておけばよいのでは」
- ・治療にかかる費用はチーム全体で1万円×5人=5万円
- ・5万円を100人で準備すればよいので、5万円÷100人=ひとり年間500円
- ・骨折した生徒は1万円を受け取り、治療費にあてることができる

○保険のしくみ③

★単純化した例を、一つの図で示し、理解を深める

・全員が少しの負担でリスクに備えることができると補足する



4-③. 生命保険って何？

○生命保険と損害保険

★民間保険には、生命保険と損害保険があり、保険の対象が異なることを説明する

	生命保険	損害保険
対象	人	モノ
受取額	あらかじめ約定した金額	事故により発生した損害額
補償内容	● 死亡 ● 病弱・ケガ ● 介護	● 交通事故 ● 火事 ● 盗難や地震

○生命保険の種類【WS】穴埋め

★生命保険はリスクに応じてさまざまな種類があることを説明する

生命保険の種類	補償内容
「死亡」の保険	死亡したときに遺族が指定された金額を受け取ることができる
「病弱・ケガ」の保険	病弱やケガをしたときに、あらかじめ約定した金額を受け取ることができる
「介護」の保険	介護が必要になったときに、あらかじめ約定した金額を受け取ることができる
「介護」の保険	介護が必要になったときに、あらかじめ約定した金額を受け取ることができる

	<p>【クイズ 4 問】</p> <p>★クイズ形式により、データを用いて「生命保険」の特徴や種類について学ぶ</p> <p>○どのくらいの家族が契約しているの？</p> <p>○何件契約しているの？</p> <p>○いくら支払っているの？</p> <p>○生命保険会社全体でいくら支払われているの？</p>		
<p>まとめ 5分</p>	<p>5. まとめ</p> <p>○まとめ【WS】穴埋め</p> <p>★★★学んだ内容のポイントをふりかえる</p> <p>①少子高齢社会で生きていくためにはリスクに気づくことが大切</p> <p>②リスクから自分の身を守る手段として共助・公助といった社会保障制度だけでなく、預貯金や民間保険といった自助もある</p> <p>③社会保障制度で不足する部分を、自助である預貯金や民間保険を利用して準備することが大切</p> <p>○最後に【WS】自由記述</p> <p>★★★自分から情報を集めようとする姿勢が大切であることを伝える</p> <p>★今日学んだことや気づいたことについて書いてみる</p>	<p>※自分から情報を集めないと保険という手段があることも知らず、スライド 20「自分で準備する必要があるお金(事例)」の 20 万円を自分で支払わないといけないうことになってしまおうと補足する</p>	

【参考スライド】

「1. 少子高齢化について考えよう」にて利用

【参考】100歳以上の高齢者の数

【参考】主要疾病の平均入院日数

【参考】年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合

「3. 社会保障制度って何だろう？」にて利用

【参考】日本の予算について

- ★★日本の社会保障給付額にあてている予算が全体の30%を超えていることを説明

「4. 「預貯金」と「民間保険」の違いって何だろう？」にて利用

【参考】社会や経済にもかかわる保険会社

- ★金融機関としての保険会社について理解する

【参考】年代別平均貯蓄額・負債額

- ★自助の手段である「預貯金」について年代別平均額を確認する

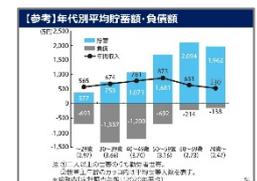
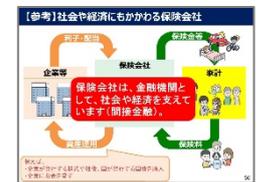
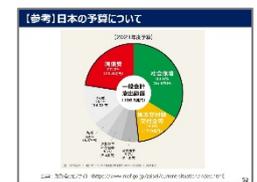
・保険会社は金融機関の1つであり、投資家としての一面も持っている

【用語】

- ・直接金融：株式や債券の発行などにより企業等が投資家（資金の出し手）から直接資金を集めるしくみ
- ・間接金融：金融機関から資金を集めるしくみ

【参考データ】

日本の生命保険会社の数…42社
(2021年3月末時点)
<一般社団法人 生命保険協会「生命保険の動向」(2021年版)>



□監修

大藪 千穂（岐阜大学教育学部 教授）

□編集協力（50音順）（所属は2022年3月時点）

伊藤 郷（渋谷区立上原中学校）

白井 裕輔（東京都立小石川中等教育学校）

山下 孝之（千代田区立九段中等教育学校）

6. 本教材における中学校社会科学学習指導要領との対応

2017（平成 29）年 3 月告示 中学校社会科学学習指導要領「社会」（公民的分野）

A 私たちと現代社会

（1）**私たちが生きる現代社会と文化の特色**

ア 次のような知識を身に付けること。

（ア）現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解すること。

【学習指導要領解説 社会編】

・・・現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解することとは、以下のよう
に捉えることができる。少子高齢化については、近年の少子化の進行と平均寿命の伸長によって、我が国の人口構造が変化し、
世界で類を見ない少子高齢社会を迎えていることや、少子化が一層進み人口減少社会となっていることを理解できるようにす
ることを意味している。・・・また、医療や年金など社会保障費の財政負担が増大し、財政の状況が悪化していることを理解
できるようにすることなどが考えられる。

（2）現代社会を捉える枠組み

B 私たちと経済

（1）市場の働きと経済

（2）**国民の生活と政府の役割**

ア 次のような知識を身に付けること。

（ア）社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、
それらの意義を理解すること。

【学習指導要領解説 社会編】

少子高齢社会における社会保障の充実・安定化・・・の意義を理解することについては、日本国憲法第 25 条の精神に基づく
社会保障制度の基本的な内容の理解を基に、その充実・安定化を図っていく必要があることを理解できるようにするととも
に、財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色などを踏まえながら、受益と負担の均衡のとれた持続可能な社会保障制度
の構築など、これからの福祉社会の目指す方向について理解できるようにすることを意味している。その際、貯蓄や民間の保
険などにも触れ、社会保障の充実・安定化のためには、自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるよう留意することが
求められていることについても理解できるようにすることが大切である。

C 私たちと政治

（1）人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 （2）民主政治と政治参加

D 私たちと国際社会の諸課題

（1）世界平和と人類の福祉の増大 （2）よりよい社会を目指して